

# 知恵の樹

No. 145 2009.12/16

町田の図書館活動を  
すすめる会

事務局：町田市森野3-1-12 増山方  
〒194-0022 FAX 042-722-1243

## 学び行動する人々の姿に励まされながら

～社会教育職員として働いた38年～ 大石 洋子



1971年4月、三多摩の社会教育実践を学んだ私は、社会教育の現場を体験して社会教育研究に生かすため、町田市社会教育課を尋ねました。急激な人口増加の中で町田市は大きく変わろうとしているとき、社会教育主事資格を持つ私は、社会教育指導員として働くことになりました。学んだことを生かすことのできる仕事でしたが、市役所の6階の事務所を拠点としての毎日で、そこから公民館や地域の集会所に出かけていって学習する市民と出会うことができました。当時、団地の集会所では、消費者問題や公害問題、子供の教育問題などの生活課題を学習する団地講座が開かれており、熱心な団地住民の姿に心が揺り動かされました。青年学級では、夜間に中小零細企業に働く青年たちが、厳しい労働を終えて仲間たちと真剣に友情や恋愛、仕事や平和の問題などを話し合っていました。

戦前社会教育の歴史は教化政策の一翼を担っており、戦後の新しい憲法教育基本法、社会教育法体制の中で、公民館を中心とした社会教育機関が、平和と民主主義社会の担い手である国民の自己教育活動を社会教育活動としてどのように支援していいのかを学びたかったのです。

「社会教育研究の対象は、社会教育行政(活動)と国民の自己教育運動との矛盾を歴史的現実的に明かにすることである」「社会教育職員は上から(行政)の要求と下から(国民)の要求の矛盾の総体である」という社会教育論を学んだ私は、38年間この矛盾と格闘しながら社会教育実践に取り組んできました。

コンドルセの近代公教育原理のなかで「公教育は

社会の義務であり人民にとっての人権の一部であり求めに応じての教育として無償を原則として、成人教育の保障」を述べています。社会教育法第3条では「すべて国民があらゆる機会あらゆる場所を利用して、実際生活に即する文化的教養を高め得るような環境を醸成するよう努めなければならない」としてその他の条文中に社会教育行政の任務を定めています(昨年一部改正)。このように、社会教育行政の公としての上からの社会教育にもかかわらず、国民の自己教育活動に対する環境醸成を任務とする矛盾した存在が社会教育行政の仕事なのです。

私は、その後、社会教育職員として採用され、専ら、住民の自己教育活動を支援するために、求めに応じて、学習の及ばない人々への配慮(アウトリーチ)を忘れずに、公民館で25年、市民大学で13年、社会教育職員としての仕事をしてきました。求めに応じて仕事をするとは、時に予算をはじめとする行政の施策との矛盾をもたらし、その矛盾に職員として悩む日々が多くありました。そんな時、実際生活や地域の課題を解決し、学び行動する人々の姿に励まされ、大人が学びあうことの意義を確信することができました。そして学びを通して地域生活や文化を豊かに創造する市民の活動に学び、社会教育職員としての姿勢を正してきました。成人学校「児童文学」をはじめとして、文庫活動や親子読書運動をされた方たちと共に企画実施した「手作り絵本の講座」「子供の読書とその指導」「語りの講座」などがあります。その後のサークル誕生と、まちだ語り手の会の活躍と発展は、社会教育職員の仕事の醍醐味と言えます。

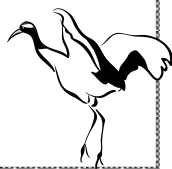
\* 社会教育行政機能を果たす独自領域として、住民の学習における指導性として①学習内容の編成②学習活動の組織化③人間関係の重視」の3つの領域があります。社会教育職員の専門性として「①社会教育活動および社会教育行政に対

する社会教育研究②世論の承認③自己研修」を必要とします。私は職人であるだけでなく自治体労働者であり、知的専門家であるために、労働条件の改善と、市民とのふれあいの中で耳を傾け自らも学び続けることを大切にしてきました。\*

### 自治労町田市図書館嘱託員労働組合 第3回定期大会を開催

11月26日(木)19:00~20:30

町田市立中央図書館6Fホール



足のゆく図書館を！権利の主張も大事だが、義務もしっかりと果たして頂きたい！」と貴重なご意見を頂戴しました。皆様のお言葉を、よく肝に命じて日々邁進して行きたいと思えます。

2009年11月26日、「自治労町田市図書館嘱託員労働組合」は、第3回の定期大会を迎えました。

71名の組合員数に対し58名の出席と、6通の委任状により定期大会が成立する旨を議長が宣言して、開催されました。議長席には、結成当時、自治労東京都本部からお祝いとして送られた団結を表す赤い組合旗が飾られています。

はじめに、執行委員の野角委員長より、「今年は正念場です。議案集の表紙に描かれた「すいみい」(絵本の『スイミー』を参考に名付けられた嘱託の組合通信タイトルです)のように、皆で力を合わせて頑張りましょう！」と力強い挨拶がありました。その為には、忌憚のない意見交換ができる組合作りが要求される事と思えます。

来賓の方々のご挨拶は、暖かく、数々の叱咤激励をいただきました。自治労東京都本部の橋本様からは、「公共サービスの縁の下の力の皆様を、援助したい」、町田市職員労働組合の荒井様からは「町田市の図書館に、直営と改革を求める」との強いご意見を、図書館六分会協議会の代表荒木様には、「大事な時期にさしかかっています。皆さんが、ギョッと団結して！ さすれば、自ずと付いて来ます」と団結の確認をされました。最後に、町田の図書館活動をすすめる会代表の増山様からは、「市民にとって満

2009年度の活動経過報告として、大きな成果を上げられた事は、09年4月から、月額8,800円の報酬引き上げが認められたこと。その他に、産前産後の休養、育児・介護休暇制度・病気休暇・育児時間・生理休暇が制度化されました。しかし、これらは要求の一部であり、私たちのスローガンともされている～利用者への、質の高いサービスを確立する～為の基本的な労働条件にほかなりません。

来年度は、「努力する」「前向きに検討する」としか回答されていない継続雇用の確保、資格給の支給、時間外勤務への報酬支給、正規職員に準ずる慶弔休暇などの勤務条件の改善に向けて、更なる活動が必要とされます。

議事は進行され、会計より2010年度の予算案から、慶弔費の提案が出され可決されました。その他、組合活動について、組合費の使い方についての詳細なルール作りが必要ではないか、と活発に議論され、予定を1時間近く過ぎての閉会となりました。

一人が皆の為に、皆が一人の為に！私たち自治労町田市図書館嘱託員労働組合は、愛する図書館で働く為に皆で力を合わせて頑張っていきたいと思っています。最後になりましたが、今後ともご指導宜しくお願い致します。(金森図書館 五明 直子)



### 子どもの願いをかなえる“情報リテラシー” —学校図書館で育つ子どものカ— 意欲をスキルをどう結びつけるかという問い掛け

鎌田和宏氏の講演を聞いて 水越規容子

さる11月14日(土)10時から、専修大学神田校舎にて親地連・日本子どもの本研究会共催の「第14回学校図書館のつどい」が開かれた。今回は午前が鎌田和宏氏(帝京大学文学部専任講師)による表題の講演、午後が広瀬恒子氏と高桑弥須子氏による対談

「学校図書館の歩みとこれから」、そして交流会という内容だった。生憎の雨模様にもかかわらず143人収容の会場はきっちり埋まり、関心の高さが窺えた。今号では午前の講演について報告する。

現在は帝京大学で教鞭をとっている鎌田氏で

あるが、その前の 20 年間は小学校などで教師を勤め、子どもたちを目の前にどうやったら役に立てるだろうかと日々考えながら実践を積んでこられている。現場での失敗や得がたい経験を笑いを交えて話される中に、子ども向けの鎌田氏の温かな眼差しを感じ取ることができた。

**はじめ**に狭山市堀金小学校の岩瀬直己先生の授業についての感想を話された。「いわせんの仕事部屋」というブログで岩瀬先生の意欲的な試みを読むことができるのでここでは省略するが、『ザ・ギバー』を使った読みのワークショップ ―子どもたちが感想や気づいたことなどを話し合いながら読み進めていく― のグループ討論のレベルの高さに感銘したという。子どもたちがとても楽しそうに本を読みあい、鋭く掴んでいる姿に、改めて本の持つ力に驚かされたという。

**子ども**は好奇心旺盛だ。ところがいつしか好奇心を摩滅させられ教室では黙り込んでしまうことが多い。学芸大付属世田谷小で 1 年生を受け持っていた時のこと、男の子が一匹の虫を持って「この虫、なんて名かな」と来た。そこでその子を図書館へと連れて行って司書にお願いして一緒に調べさせた。これがきっかけとなって、この子は「学校図書館が頼りになる」ことに気づき、本も読むように変わっていった。

**子ども**が「知りたい」と感じた時、低学年の場合は「人に尋ねる」が手近な問題解決方法。しかしそこから「本で調べる」へ繋げ、本で調べて答えが見つかる体験を何度もすることが大事。調べることそのものは多くの先生方が実践しているが、子どもが本当に自分で知りたいと思った時に調べ、問題解決を体験する機会を作ることは、実際の学校教育の場では難しい。大切なのは調べるスキルの習得ではなく、実際に知りたいと思ったその時に「知りたい」ことを調べ、答えを見つかる楽しい経験を何度も積み重ねていくこと。情報リテラシーの重要性が叫ばれてはいるが、子どもたちの「知りたい」「調べたい」という、一番重要な意欲の問題はなおざりにされている。体系化しづらい、学問の対象になりにくい部分ではあるが、この意欲の問題を抜きにしては先に繋がらないと現場で感じていたという。

**同じ例**として「割り箸鉄砲」の話も披露された。ここではさらに進んで、インターネットでも情報が溢れているが、実際に子どもが理解できるサイトは少なく、図書館での工作の本が役立ったという。しかもクラス

のイベントとして広げ、みんなで割り箸鉄砲作りに挑戦、その後図書館の7類(工作)の前に立つ子が増えたというおまけつき。ここでも教師が決めた手順でなく、子どもたちの自主的な意欲・知的好奇心をうまく捕らえて問題解決に図書館を利用した実践となっている。さらに「青虫・毛虫」事件でもこの手法が功を奏し、一件落着となった顛末ももしろかった。

**極め付き**は「ユウ君」の事例だろう。知的好奇心は旺盛だがなかなかうまく噛み合わずにいたところ、ある時「鼻毛(の研究)」という作文を書いてきた。これが愉快だったのでみんなの前で(氏名は明かさずに)読んだら大受け。そして2週間後「お待たせしました、鼻毛です」で始まる次の作文に繋がる。3 回目はついに、「からだの事典で調べた」となる。もちろんその基盤として、同じ本を使っていた「図鑑の使い方」指導などが十分に行われていたこともあるが、自分の「知りたい」が本で調べられることに繋がったことの発見は大きく、ユウ君は次々と「調べ研究作文」を発表していくようになる。一人の子どもが変わると、それが他へも波及する。このクラスの子どもたちは「生活作文」よりも「調べ作文」を書くことが断然多くなったという。その後3年生になったユウ君はSFショートショートを書き、なんとそこには参考文献リストがついていたという。調べたり読み取ったり考え表現するスキルについてはすでに十二分に語られているが、「子どもが自分の願いを実現するために」という部分を抜かすと、それは持続しない、本当には身につかないのではないかと鎌田氏は言う。学校現場で情報リテラシーの育成を考えるのであれば、単にスキルの習得を目指すのではなく、子ども自身の好奇心や意欲をどのようにして培い育て、そしてそれとスキルとをいかにして実際に結びつけていくのかについて、もっと考え工夫しなければならないのではないかとの問題提起で、実際に子どもたちを目の前に試行錯誤と実践とから導き出されたことなので、説得力がある。しかし同時にこれは、教師の資質や能力もさることながら、一人ひとりの子どもたちとじっくり向き合える教育環境がなければ難しいだろう、とも考えてしまう。

**話**の端々で司書の専門性や学校図書館の重要性について言及され、これからの若い教員志望者にも、ぜひ聞いてほしい内容であった。

# 人・本・情報・まちづくり ～全国図書館大会に参加して～

町田市職員 古川 和隆

私が町田市立図書館の現場を離れて約5年。福祉総務課、市民課と経た今も、私は日本図書館協会や図書館問題研究会の会員を続け、図書館に想いを寄せて参りました。今年度は日本図書館協会主催の全国図書館大会が、明治大学を会場にした東京大会である気安さもあって、私は開催日である10月30日に休暇を取って参加してきました。

会場に着き、大会要綱を受け取ると、表紙には大会テーマである「図書館は力 ～人・本・情報・まちづくり～」の文字。表紙をめくると図書館車のパイオニアと称し、町田市立堺図書館『そよかぜ号』の紹介(林田製作所・広告)がありました。私は長く移動図書館そよかぜ号の担当をしておりましたので、懐かしい思い出がこみ上げてきました。

記念講演は柴田信さん(信山社代表取締役、本の街・神保町を元気にする会事務局長)です。商売敵の三省堂等と組んで在庫情報ネットワークを構築したり、小学館から車椅子で町が歩けないとの提言を受けて、人に優しい街へインフラ整備をすすめたり、子どもたちを町に呼ぶため、集英社の漫画『ワンピース』のイベントを企画したり等、「神保町の元気は出版会の元気」をスローガンに取り組む行動指針を伺いました。「本屋も図書館も選書に本質がある。そこに生き方を賭ける」、「図書館の立ち位置は教育。仕事は伝達」、「志のありようがすべてを決める。ひたむきさがなければ伝達できない」、「本の力を信じる。本や図書館は社会のコーチ役」、「まちをつくるには現状を共有する。地域、人、まちのイメージを認識すれば何かを生み出せる」、「力むと長続きしない。従事者自身が面白いと思えない物は駄目」、「本が好き・人が好き・町が好き」と訴える姿が印象的で、魅力的な方でした。

午後は「国民読書年をみんなで考える」分科会に参加しました。基調講演は、私が最も好きな絵本のひとつ『コアラとお花』(ポプラ社)の訳者、肥田美代子さん(児童文学作家、元衆議院議員、文字・活字文化推進機構理事長)です。肥田さんからは、1989年の子どもの権利条約採択から1997年の学校図書

館法改正、2011年予定の新指導要領に至るまでの言語力や読書推進の動きと課題を学びました。

最近、私は縁あって私立中学校高等学校を廻る機会が多いのですが、学校図書館が充実している学校ほど、生徒たちの顔が穏やかで、かつ、生き生きしている傾向があると感じています。ですから私は、学校図書館に関心を寄せてきた経験や今回の基調講演をあわせて考え、改めて学校図書館の大切さを感じている次第です。

大会終了後、夜は図書館問題研究会の交流会に参加し、全国各地の館長や若手図書館員、大学教授等との新たな出会いのひと時を過ごしました。とりわけ、横浜市立図書館を経て、横浜市戸塚区役所で働いている川越峰子さん(図書館問題研究会前委員長)とは意気投合し、会話が盛り上がりました。川越さんと私は、現在、住民票にかかる同種の仕事をしているからです。「市民が探しているものに辿り着けるようインタビューする点やフロアの案内等の接客、町村合併などによる行政区の変遷を調べる等、図書館と共通点は多い。しかし、図書館の利用者層と役所に証明書を取りに来る層が違うことに気がついた。もっと広い層に図書館を利用してもらえるようにしなくては」と川越さんは語ります。私も同感です。例えば私は、転入した市民に、各種センターや駅前連絡所、資源とごみの案内と共に「町田には6つの図書館の他、移動図書館が約60ヶ所回っています。子育てもビジネスも支援しますから、是非利用してくださいね」と欠かさず紹介しているのです。

10月30日、私は改めて自分の想いを自覚しました。図書館で養った知識と経験を生かしながら、さらに自分に磨きをかけてゆきたい！市民と図書館と行政職場の架け橋でありたい！共に人を育て、まちを育て、愛すべき町田を築き上げたい！

(ふるかわ、かずたか)



若林幹夫氏(早稲田大学教授)の講演会  
「郊外都市論」わたしの町田 を聞いて  
片岡貞子

去る10月31日(土) 町田市民文学館で行われた「ドリーム10(テン)の会」主催の表記講演を聞いてきました。若林氏の専門は、社会学理論・都市論・メディア論。先祖代々の町田地元民として生まれ、現在は郊外都市千葉県流山市に外来住民として住んでおられます。07年『郊外の社会学—現代を生きる形』(ちくま新書)を書かれ、町田・八王子(南大沢)・多摩ニュータウン・流山などを取り上げ、郊外生活者としての経験と都市社会学を結びつけ郊外を生み出したメカニズムを考察、郊外に生きる人々の生に言及されました。その他著書は多数です。

都市を考え始めた理由について「自分の生きていく社会を考える上で都市の切り口から何が見えるか、自分の生まれ育った東京郊外の風景が現在希薄で薄っぺらなものに見えた」と語っておられます。

「散歩をしていても同じような景観が続き、安っぽい家が立ち並び面白くない。子どもの頃に遊んだ雑木林や田んぼ、小川が無くなり風景が失われていくその希薄さの中に住んでいる。このリアリティの無さの中にある社会性とは何か考えてみようと思った」との事です。先生は、このリアリティの無い個性の無い新興住宅を「デコレーションケーキ」のように表現しておられました。ディズニールンドのキャラクターを飾る家々の玄関、クリスマスのイルミネーションを庭に飾る人々に今まで見られなかった社会と、言及されました。

私の経験を語ってみます。私の人生は正に、都市化する郊外を渡り歩いたようなものです。

参考までに申しますと、明治生まれの母は幼児の頃、根津から千駄ヶ谷に移り駅には狸や狐が出たとの事。私の育った東横線沿線は、畑も雑木林も原っぱがあり、小川にはメダカ、オタマジャクシ、雑木林に寝ぼけたフクロウがいました。柿の木坂は屋敷町に変貌しつつありました。

結婚の新居は大森でしたが、畑があり歩いて海岸に行く途中には海苔を干していました。

子どもを育てたのは小平団地、周りには畑や桑畑

もありキジバト、モズ、メジロもいました。

現在の南つくし野に来たのは35年前。ヒバリ舞い、スズメ群れ、ツバメが巣をつくり、子どもたちは、オタマジャクシ、ドジョウ。タニシ、メダカ、ザリガニを飼いました。この急速な都市化は歯止無く続くようです。気になることがいくつかあります。旧住民と新住民の融和の難しさです。先生も指摘された都市文化と農民文化の違いもあります。

話は飛びますが民話を子どもに残す「語り手の会」の活動は都市化する郊外に柔らかな光を注ぐものではないでしょうか。(会員)

リレー・エッセー  
本との付き合い方

町田市役所職員 小池愛子

何度でも繰り返し読みます。シャーロック・ホームズシリーズ、三国志、坊っちゃん(夏目漱石、1950年、新潮社)、燃えよ剣(司馬遼太郎、1972年、新潮社)、検屍官シリーズ(パトリア・コーンウェル、1992年～、講談社)、…。ジャンルのごだわりは特にありませんが、振り返ってみると小説が多い気がします。一度その作品を気に入ると、熱狂的に読み進み、折にふれて読み返すのです。

初めてシャーロック・ホームズシリーズを読んだときのことは今でも忘れません。小学校の図書館、小学生向けの装丁で挿絵が多い『唇のねじれた男』でした。今まで触れたことのない表現や世界観に一気に引き込まれ夢中で読んでいました。20年ほど経過した現在も、挿絵のない本にはなりませんが、あの時と変わらずワクワクしながら読み返しています。

買ってもすぐに読みません。いわゆる積読(つんどく)です。タイトルや装丁に着かれ突発的に何冊も購入し平積みして置いています。買ってすぐ読む本もありますが、手元にあってもいつでも読める状態になれば満足してしまう本もあり、数ヶ月前に入手した本もまだ読まずに積まれている状態です。

『生物と無生物のあいだ』(福岡伸一、講談社現

代新書、2007年)も長く積んでいた本のひとつです。積んでいる事実も忘れかけていましたが、書店で何気なく手に取った雑誌『クロワッサン』(マガジンハウス、768号、2009年)を眺めていたとき突然この本のことを思い出したのです。雑誌には、良質な食材についての特集の中で質のよい物を食べることの重要性が書かれており、食べ物は食べた瞬間から細胞に置き換わっていく、という趣旨の一文がありました。本と直接関連はないのですが、「瞬間的に」「置き換わる」というフレーズに引っかかるものがあったのだと思います。そこからは妙に納得してこの本を読み

進めていきました。

本は発行当初が一番旬な時期なのでしょうが、思考や感覚が追いつかないために私にとっての旬ではないことがよくあります。背表紙を眺めながら寝かせていて何かのきっかけで読み始めたときに、こんな関わり方ができるのは新聞や雑誌、インターネットの情報と違うところだなあと実感します。新聞や雑誌、テレビからの情報が積んで置いた本と繋がって想像力を膨らませていく、そんな本との付き合い方が最近の私のお気に入りです。



## 平成 21 年度 東京都多摩地域公立図書館大会

### 『多摩からはじまる、国民読書年』

2010年は国民読書年。この記念すべき年に、課題を共有する図書館職員の研鑽の場として、また市民との共同研究・交流の場として多摩地域図書館からの声を発信していこうと、本大会が開催されます。



**会場** 1. 2. 3. 4. 6 = 国分寺市立いずみホール(定員 370 名)  
5. = 調布市グリーンホール・小ホール(定員 250 名)

**日程** <午前の部: 9:15(受付), 10:00~12:00> <午後の部: 13:00(受付), 13:30~16:30> <5=例外>

1. 2/4(木) 午前: 9:45~開会式, 基調講演「デジタルとケータイの時代の『読書』」津野海太郎氏(評論家)  
午後: 第1分科会・館長協議会「資料保存と共同利用」、報告/東京都立中央図書館、元共同利用図書館検討委員会、日野市立中央図書館、NPO法人「共同保存図書館・多摩」
2. 2/5(金) 午後: 第2分科会・協力貸出「相互貸借業務のさらなる発展をめざす」、報告/八王子市中央図書館, 講演=國松完二氏(滋賀県立図書館)
3. 2/9(火) 午後: 第3分科会・レファレンスサービス「利用者と図書館員のためのレファレンスサービス入門」  
講演=斎藤 文男氏(富士大学教授)/報告=八王子市中央図書館、座間図書館友の会
4. 2/12(金) 午後: 第4分科会: 障がい者サービス「これからの障がい者サービスを考える~著作権法の改正で図書館はどう変わるか」/講演=佐藤聖一氏(埼玉県立久喜図書館),  
報告=調布DAISYの会
5. 2/17(水) 午後(受付 13:40, 14:00~17:00): 第5分科会・地域資料「多摩の鉄道史」/講演=今尾恵介氏(鉄道・地図研究家), 報告=鉄道各社からの情報発信
6. 2/18(木) 午後: 第6分科会: 児童サービス「子どもと本の世界をむすぶ人たち—図書館員・ボランティアの役割を考える」/講演=後藤暢氏(元専修大学教授), 報告=町田市立中央図書館、立川市中央図書館、東村山市立中央図書館・東村山うちでのこづち

参加費=無料、申込=1/6(水)~20日(水)迄に各図書館へ。一般の方は直接開場へ。

主催 東京都市町村立図書館長協議会

問合せ: 実行委員会事務局 (☎ 042-362-8647 府中市立中央図書館 担当: 桜田・坪井)

E-mail: [tosyo01@city.fuchu.tokyo.jp](mailto:tosyo01@city.fuchu.tokyo.jp)

◆図書館友の会全国連絡会MLより

◎11月19日(木)午後、図書館友の会全国連絡会の院内集会在、議員本人15名、議員秘書44名、一般参加(市民)98名が参加し(マスコミ関係者8名「朝日新聞東京本社・論説委員・社会グループ、読売新聞東京本社・社会部、しんぶん赤旗・くらし家庭部、出版ニュース社、文化通信社、「読書人」営業部、「新文化」通信社」を入ると計165名)、参加者の熱い思いが伝わる意義のある懇談会が行われた。(町田からは残念ながら参加者はゼロ。議員へのこのロビー活動の成果は、これからの活動に大きく生かせるのではと期待が寄せられる)。

☆関連記事紹介／「図書館振興、議員ら懇談」(2009/11/20 読売新聞抜粋)【図書館の振興と発展を関係者と国会議員らが話し合う初の懇談会が、東京・永田町の衆院第2議員会館内で開かれ、150人以上が参加した。蔵書充実のための国の交付金がほかの用途に使われている弊害など図書館の現状について、意見交換した。活字文化議員連盟会長の中川秀直元自民党幹事長は、「図書館に使われるべき金が公務員の人件費に流れている、という地方の実態がある」と指摘した。】／「図書館振興についての国会内集會を開催」(JLA メールマガジン 480号より)【図書館の振興と発展を願う国会内集會が11月19日午後開催された。主催は図書館友の会全国連絡会と日本図書館協会による実行委員会で、図書議員連盟、活字文化議員連盟、子どもの未来を考える議員連盟の図書館関係の3議員連盟の協力により開催した。折から国会は金融関係法案の採決を巡って国会議員が慌ただしい動きを示しているなか、主催者がたびたび国会内の状況把握に追われるもで行った。そのようななか16名の議員と40名の議員秘書、一般市民や図書館員など合わせて160名を超える人たちが参加し、半分近い人たちは立ち見という状況であった。最初に図書館友の会全国連絡会の佐々木順二代表が、図書館についての初めての国会内集會であり、国会議員の皆さんの協力を得て開催したことの意義と協力に感謝する挨拶を述べた。それに応えて、図書議員連盟の細田博之会長は、図書館の果たす役割は大きい、しかしそれを支える財政は十分ではなく、地域と図書館の皆さんに苦勞をかけている、その改善のために議員としての役割を果たしたいと述べた。さらに活字文化議員連盟の中川秀直会長は、地方交付税措置をしても図書館ではなく別の用途に使われていることを指摘した。田中康夫議員(新党日本)は知事時代、図書館建設が困難な中、高等 学校図書館の地域開放や自動車を動かして地域に資料を届けた施策を披露し、藤田一枝議員(民主党)は皆さんの熱意に応えるよう頑張ると表明、山下栄一議員(公明党)は子どもの読書活動推進を図ることの大事さを述べ、宮本岳志議員(日本共産党)は中学校区を単位とした図書館の整備、吉井英勝議員(日本共産党)は市場化テストの問題点について、それぞれ発言をした。これら国会議員の発言を受けながら、図書館情報大学の竹内さとる名誉教授(前協会理事長)から、人が生きることに果たす図書館の意義を解明した講演が行われた。図書館があまねく住民の生活圏域に整備すること、そこには資質と意欲を備えた図書館職員がいることにより、人が育つ上で重要な役割を図書館が果たすことができることを強調された。参加者からは、福岡県の図書館で進んでいる委託や指定管理者制度の問題点、大阪府立中央図書館の業務が市場化テストの対象となっていることの問題点、過疎地域での図書館建設を進めるための制度改正を求める発言があった。日本図書館協会の松岡事務局長は、閉会の挨拶で、図書館サービスを進めるために地域住民、図書館員、および自治体関係者は腐心している、しかし国は、それを妨げるような法律をつくり、十分な財政支援をしていないと指摘し、国会議員の尽力を期待したいと述べた。その他の国会議員の出席者:中野譲、稲見哲男、城井崇、山崎誠、森岡洋一郎、勝又恒一郎、辻恵(以上民主党)、浅尾慶一郎(みんなの党)、川田龍平(無所属)】

◆練馬区が図書館を区民生活事業本部へ移管する旨を表明。練馬の図書館をよくする会、学校図書館を考える会等3団体が反対に向けて始動。12/1、練馬区議会文教委員会では、組織の見直しとして新基本構想将来検討委員会(今年10月21日に組織検討委員会を設置)を設け、平成22年に議会の承認を得て庁内検討委員会で検討し、23年4月に実施する予定であることを議会で初めて報告した。

◆横浜市会の常任委員会で、平成22年4月から山内図書館に導入される指定管理者制度の指定管理者として有隣堂グループを指名する案件が賛成多数で採択された。



# ひろば

<11月例会報告> 18日(水)

16:30~会報144号印刷

18:00~20:20 例会

於・中央図書館中集会室

出席/石井 伊藤 斎川 高橋 増山

丸岡 水越 桃澤 山口

○「知恵の樹」145号について

・巻頭言は長年市職員として社会教育に携わってこられ、この春公職を退かれた大石洋子さん。

・嘱託組合定期大会報告(p2)/・学校図書館の集い報告(p2,3), 全国図書館大会(p4), 多摩地域公立図書館大会開催のお知らせ(p6), 図書館情報(p7)

○中央図書館集会室の利用手続きについて改善を要望したい(提案)。土日が使えない、職員に手間をかけすぎるなどの点から、もっと簡便に市民が使えるよう、利用規定の見直しを、併せて印刷室の利用規定の見直しも提案したい。

○国の事業仕訳で見直しとなった「子どもゆめ基金」に、各地の子どもの読書活動に関係している人たちが、復活や新たな基金創設について署名活動をしているが、すすめる会はどうするか/「ゆめ基金」が

## 町田の学校図書館を考える会

### 連続講座 Part II

「楽しい図書館づくり 基本のき」 資料費 200円

講師 田沼恵美子氏

(元お茶の水女子大付属中学校司書)

2010年1月17日(日) 14:00~16:00

町田市民文学館 第4・5会議室

たくさんの画像を紹介しながら、図書館づくりをはじめ展示の仕方などをお話しいたします。

<12月定例会報告>12日(土)17:00~18:00

文学館1階ロビー

出席者:清水・谷釜・伴・水越・市川

### ○連続講座関係

① Part II (p8参照)の講座準備およびPR活動について

② Part III「本の修理について」、Part IV「バーコード化について」の会場について

### ○学校図書館見学について

### ○「質問表」のまとめについて

\*1月定例会=17日(日)13:00~文学館1階ロビー  
(問合せ:伴 ☎042-797-9579)

2009年度 第10回 文学館(主催)で楽しむ

おとなのためのおはなし会

1月21日(木)10:30~11:30

町田市民文学館 2F大会議室

### プログラム

\*ゆかりの作家「福本和也」 菊池とも子

\*「とめ吉のとまらぬしゃっくり」(松岡享子作)佐羽悦子

\*「佐藤家の元旦そば」(町田の民話) 増田佳恵

\*「野の白鳥」(アンデルセン作) 西村敦子

<語り:まちだ語り手の会>直接会場へ!



天下りの温床になっていたのも否定できない。見直しは仕方ない/お金は地方自治体に下ろしてくれば、もっと使い道をはっきりさせた使い方ができる/などの意見が出て、今回の署名参加は見送ることに。

○図書館友の会全国連絡会の院内会議が 11月19日行われる。注目したい。(p7)

○まちだ語り手の会...子どもゆめ基金助成事業「子どもたちに耳からお話を」の4回講座を終了。

○学校図書館考える会講座企画について(左下)

○山口さんから...司書講習を修了した学生が町田市立図書館を見学。好評だった。12月も藤沢市立図書館を見学の予定。

○本紹介(I)...町田関連の本『古本検定』岡崎武志(朝日新聞出版2009年10月)。問題の中に高原書店・八木義徳・三浦しをんがあり、三浦しをんは高原書店でアルバイトしていたとある。つげ義春の『無能の人』のモデルが町田で古書店店主であった立石慎太郎と言われていることも載っていた。ざっと目をとおしたところだがいろいろ発見がありそう/図書館が出てくる小説2冊。『おさがりの本は』門井慶喜(光文社)・『刻まれない明日』三崎亜記(祥伝社)。前書は思い出の本を探すレファレンス担当者の話。図書館の委託をすすめる館長もでてる。後書は失われた町にあった図書館の話。

### あとがき

嘱託労働組合定期大会に出席した(P2参照)。配布されたA4版38頁の議案集には、1年間の活動がびっしり詰まっている。図書館で働きたいと思うものが自分たちの職場を守ろうと真剣になっている姿を見て、つい正職の中に図書館を愛し図書館で働き続けたいと願っている人がどれだけいるのだろうかと考えてしまった。どんな業者にも負けない専門集団として働ける図書館であって欲しいと願うのは夢なのだろうか。国レベルでは図書館は委託に馴染まないという見解をだしているが、まるで流行に乗り遅れまいとするように民営化を口に近視眼的施策を打出す自治体も後をたたない。こんな馬鹿なことで惑わされない年を迎えたいものだ。(M<sup>4</sup>)